

日本記者クラブ加盟各社各位
報道関係各社各位

令和2年7月13日
公益社団法人 日本眼科医会
会 長 白根 雅子
常任理事 加藤 圭一

被災地では冠水後の土埃などによる 結膜炎の発症にご注意下さい

7月7日、日本眼科災害対策会議を設置しました

このたびの豪雨災害により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。

日本眼科医会では、7月7日、令和2年7月豪雨災害に対し、白根雅子会長を本部長とした災害対策本部を立ち上げました。日本眼科学会および眼科関連諸団体と協力し、日本眼科災害対策会議として迅速かつ的確な被災地支援を目指します。

現在、被災地は多量の土砂、汚泥に覆われており、今後乾燥すると、冠水後の土埃が飛散し、結膜炎発症の危険が予想されます。2018年7月の西日本豪雨災害の際に、日本眼科医会から災害派遣した眼科医が倉敷市真備町の避難所で診療を行い、半数以上が目の違和感、充血などを訴え、結膜炎の症状を認めました。

結膜炎の症状は原因によって異なりますが、充血・異物感・目ヤニなどの症状から始まる 경우가多く、原因によっては周囲の方にうつってしまうこともあります。被災地では、すぐに眼科を受診できない場合もあり、予防への注意喚起をお願いいたします。

具体的に、下記に注意事項をまとめました。

- ①汚れた手で直接目に触れない
- ②特にコンタクトレンズの装着脱の際は、手指を清潔に
- ③泥のかき出し作業の際は、眼鏡・ゴーグルの着用を



ウイルス結膜炎

被災された方々、支援などで作業をしている関係者の方々に、上記の注意喚起を行うことにより、目の安全が確保されることを祈念します。報道機関の皆様には情報発信にお力添えをいただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。ご不明点などございましたら、下記にお問い合わせください。

以上

